

若いころに故郷を離れた私が「夢の島 Island is land of dreams」と題した展覧会を地元の屏東美術館で開催いたします。還暦は過ぎてしまいましたが、地元の家族や親友たちに展覧会という形でご報告したいです。展示内容は私が1975年に屏東を離れて、台北で学問と芸術を勉強した成長の過程です。今回特別に、私が台湾師範大学美術学科学科長から副校長までを勤めた間に台湾芸術銀行と一緒に進めた師範大卒業生優秀作品プロジェクト中から、約40年前(師範大学在学中の1976年から大学を卒業した1980年までの間)の私の作品を借り出しました。1989年に登泰グラフィックデザイン株式会社のロゴ・パッケージなどの実務に従事し、1990年に台湾印象ポスターデザイン協会を創設、2003年に「私の台湾」の図案ライセンス商品開発を行い、2007年までにわたって台湾国立文化芸術財団の「美術類国家文学賞」を受賞した「私の台湾、心の故郷」「台湾家書」「夢の島」などの作品シリーズの展示を挙行した等々…私にとって今回の展覧会は人生の宿題を提出するという形で地元の家族や親友たちにご報告できれば幸いです。私は屏東人であることを誇りに思います。

長年「海に繋ぐ記憶」展覧会を企画していただいた文化コメンテーターの王超鷹氏や、瀬戸内市市長の武久顯也氏のお誘いに感謝します。日本PAOSグループ社長の中西元男氏のサポートも頂きながら、私は瀬戸内芸術祭の期間中、瀬戸内市立美術館で「夢の島」個展を開催させていただきました。瀬戸内は日本の大正浪漫を代表する画家である竹久夢二の故郷です。彼は多くの広告宣伝物を手掛け、当時の人気ファッションアイテムになりました。そのため、今回特別に私が長年の間日本旅行を通じて描いた百通の絵葉書と世界各地から台湾への家書とともに展示させていただきます。デジタル化がすすむ今、意図的に手描きの絵葉書を展示することを通して、夢の島で自分の夢を守りたいと思います。

村松道子